

# ボランティア通信



上智大学ボランティア・ビューロー (2号館 1F 学生センター⑧窓口)

Tel : 03-3238-3525 Mail : [volunteer-co@sophia.ac.jp](mailto:volunteer-co@sophia.ac.jp)

Twitter : @SophiaVolante

LINE@ : (登録時に希望する配信内容「ボランティアについて」のチェックを入れてください)

※「ボランティア」とはポルトガル語の舵取りという言葉から、学生の皆さんのボランティア活動と社会を繋ぐ役を果たしたいという意味が込められています。



新型コロナウイルス感染拡大防止の為、写真洗浄会や災害復興支援のための現地での活動、そのほかの課外活動を、残念ながら現在、控えています。今回は4月以前の活動報告をお伝えします。

## 熊本地震から4年が経ちました

熊本地震からこの4月で4年が経ちました。熊本では新型コロナウイルス感染防止のため、慰霊式の中止や、形を縮小しての開催といった中でも厳かな鎮魂の祈りに包まれました。

様々な困難が続きますが、身近な人との繋がりを大切に、どんな困難も皆で乗り越える事が大切であると改めて教えていただいたように感じます。

1月24日～26日に課外活動団体Habitat for Humanityの学生12名がNPO法人にしはらたんぼぼハウスにて活動をしました。今回もしはらたんぼぼハウスの交流活動の一つである地域の子供達のためのプロジェクトに参加させていただいたり、仮設住宅への訪問と、交流の場を広げさせていただきました。活動報告の一部をこちらに紹介します。

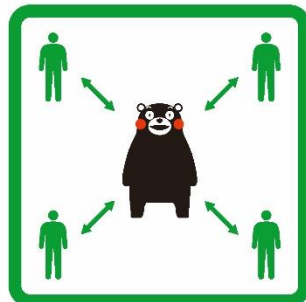
熊本県阿蘇郡西原村にて、熊本県立大学の学生とともに子供が遊ぶための道具作りや、車椅子でもスムーズに移動できる基盤づくり(でこぼこの土地をシャベルで土を移動させて、平坦にする作業)をおこないました。これらの活動を通して、「子供の森プロジェクト」という素敵なプロジェクトに携わることができて大変光栄です。

仮設住宅訪問では、コミュニティーの大切さを実感しました。震災によって元々属していたコミュニティーが崩壊し孤独を感じる被災者が多くいた中、仮設住宅という新たなコミュニティーで互いに信頼関係を築き、励まし合いながら生きる姿に感動しました。

今回も大変お世話になりました。にしはらたんぼぼハウスの皆様、熊本県立大学の皆様、またお会いできる日を楽しみにしています。

上智大学では災害復興支援活動を行う学生に交通費の補助を行っています。課外活動や他地域への移動ができる状況になりましたら、ぜひ制度を利用して活動を行ってください。

くまモンも非常に重要な3点を啓発しています！ 引き続き忘れずに！



くっつかないモン  
#KeepDistance



手を洗うモン  
#WashHands



換気をするモン  
#OpenWindow

©2010 熊本県くまモン

## ボランティアサークルのご案内

上智大学には、30団体以上のボランティア活動を行う課外活動団体が存在します。

活動は国内・海外にわたり、災害復興支援や子供支援、環境や貧困問題についての課題解決を目的としたものなど、多岐に渡ります。

活動を通してかけがえのない仲間や、社会の課題解決にどう向き合うか新たな発見との出会いがあります。新入生・在校生のみならず、ぜひサークルでのボランティア活動にも参加してみませんか？

課外活動団体全般の紹介は大学HPで確認できます。

<https://www.sophia.ac.jp/jpn/studentlife/kagai/clublist.html>

※2019年度登録団体のリストと記載がありますが、こちらが現時点での最新版になります。

毎年4月初旬に、大学に登録されている団体(クラブ・サークル)の部員たちが新入生の皆さんを歓迎する「フレッシュマン・ウィーク(以下フレマン)」というイベントを開催しています。

今年は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、残念ながらフレマンが中止となりましたが、代替策として、Web上でクラブ・サークルの紹介等を行うことになりました。詳細は、Loyola掲示板(課外活動)「フレッシュマン・ウィーク特設サイト開設」の案内をご確認ください。

ボランティアサークルには国内・海外での子供・教育支援、難民支援、災害復興支援、環境保全、食の均衡、手話のサークルなどいろいろな団体があるよ。30年以上続く歴史ある団体もあれば、新しく生まれたばかりの団体もあります！



## ボランティアぷらっとほーむメンバー大募集！

“ボランティアぷらっとほーむ”とは、各ボランティアサークルの横の繋がりを強めることを目的とした学生の有志団体です。

彼ら自身がボランティア活動を行うのではなく、上智大学のボランティア活動の活性化を目指し、ボランティア・ビューロー(学生センター内)と共に、ボランティア活動をする学生たちの後方支援となる様々な活動(情報発信、交流の場の提供等)を行っています。

### 2019年度の主な活動

- ・ボランティアサークル説明会
- ・Talk～面白い悩みがあふれてる～  
団体運営の悩みをどう解決するか？横のつながりで解決を目指す！
- ・オープンキャンパスでのボランティア団体紹介・クイズ大会やパネルディスカッションを企画・運営・司会も！  
ボランティア系課外活動団体の紹介冊子の編集
- ・ボランティア団体の活動写真展

### メンバー随時募集中です！

企画の提案・交渉・実施などに挑戦したい方は、ぜひお気軽に連絡してください！  
新入生・在校生大歓迎です。

Twitter @Sophia\_VoPla

E-mail :  
[volunteer.platform.Sophia@gmail.com](mailto:volunteer.platform.Sophia@gmail.com)





# ボランティア通信



上智大学ボランティア・ビューロー (2号館 1F 学生センター⑧窓口)  
 Tel : 03-3238-3525 Mail : [volunteer-co@sophia.ac.jp](mailto:volunteer-co@sophia.ac.jp)  
 Twitter : @SophiaVolante  
 LINE@ : (登録時に希望する配信内容「ボランティアについて」のチェックを入れてください)



上智大学ボランティア・ビューロー (ボランティア)  
 SOPHIA VOLUNTEER BUREAU

ボランティア・ビューロー窓口には、まだまだ多くのボランティア情報を用意しています！ お気軽に足を運んでください。

## 復興庁主催 復興・創生インターン2020年春 活動報告

「復興・創生インターン」は、岩手県、宮城県、福島県の被災地企業を対象とした実践型インターンシッププログラムで、本学の学生も多く参加しています。

就業体験に留まらず、被災地企業が抱えている課題に対し、経営者と協働して解決に取り組む実践型インターンシッププログラムであり、約1か月間、学生同士、共同生活を送りながら就業体験を経験することにより、キャリア観の醸成や課題解決能力の向上を図ることを目的とされています。

2月10日～3月13日に宮城県女川町の日本茶フレーバーティー専門店OCHACCOで活動をした総合グローバル学部総合グローバル学科3年 古滝若菜さんの報告をお伝えします。

### 【活動内容】

日本茶のフレーバーティーを取り扱う会社でノベルティ事業を視野に入れた販路拡大の土台を作る事を目的に、具体的には新規の取引先獲得のための営業資料を作った。

前半は実際にお店に立ちOCHACCO自体の理解や理念を経営者の方から聞き出し、さらに既存取引先にヒアリングを行った。後半は実際の営業資料の制作、成果の報告会を社内と町内で実施した。



### 【感想】

これまでの長期休みは、海外に渡航することが多かったが、とあるきっかけを機に国内の長期インターンであるこの復興・創生インターンに参加した。地域ではなくインターン内容から選んだゆえに、女川ってどこにあるの？ほかのインターン生と仲良くできるかな？という状態から参加したので正直不安は大きかった。

実際このインターンに参加した意義はあった。語りつくせないのだが主に2つの観点から収穫があった。

1つ目としてこのインターンの業務についてだ。企業の意思決定者と非常に密接にコミュニケーションをとりサポートを受けながら主体的に事業の一員として動けることに大きな意味があった。ことにこの女川町は人口5,500人の町であり、大抵の企業や店舗は町の規模に合わせたコンパクトなスケールである。さらに2011年を機に街を作り替えたヒト、モノ双方が非常にフレッシュな町であることもあり、私も含め、大半のインターン先の企業では経営者と直接やりとりをしながら活動を共に行えた。ただ経営者からいわれたことをハイと言ってやるのではなく、自分の意思を伝えて実際に行動に移せる環境があった。特に私の仕事は、営業資料をつくるというなじみのないことであったので、コミュニケーションをとりやすいあの流動的な環境がなければ成し遂げることができなかった。

ペアで業務を行えるのもこのインターンの利点であった。ペアの学生と私の性格は真逆であったが、お互いの長所を認め合い、営業資料を作る際も分業で行った。真逆だからこそ2人の長所を合わせて2人以上の力を出すことができたのだと思う。さらにコワーキングスペースで煮詰まったとき、すぐほかのインターン生に意見を求めたり、また求められたりする環境であったのも最高であった。

2つ目の意義として人との出会いがある。まずは一緒に参加した15名のインターン生である。この復興・創生インターンは、大学での専攻も住んでいる地域も無論学年もバラバラな人がインターン初日にいきなり顔合わせる。

最初はぎこちなかったが、またもや女川独特の環境が相まって、この15人でよかったですと1か月後には思う事ができた。最初の1週間は男女別のシェアハウス、後半はホテルに2～3人ずつ住んでいたのだがどちらも普段首都圏で住んでいるようには暮らせなかった。

女川にスーパーはなく、私たちの食生活はコンビニによって支えられていた。また飲食店についてはどれも絶品なのだが、コロナ自粛前だというのに19時には居酒屋以外はほぼ閉店する。そして外に買い物に行こうとしても規約上、車は使えず(女川には電車が90分に1回しかない)「ネギないから買いにいこう」はできない。(コーディネーターさんが車を出してくれることはあったが…)かくして15人は自ずと女川流ライフハックを身につけ料理を作ったり同じ空間で食事をしたりする中で打ち解けた。

次に受け入れ企業も含めた女川町の皆様との出会いである。特に受け入れ企業の方々には本当にお世話になった。インターン終盤、つらい時に気持ちを察して食事に連れて行っていただき、お話できたことは特に心に染み。普段も、業務以外の暮らしにまで気を遣っていただき、時には恋バナまでしたのも思い出であり、インターン先というのはもっと強い関係だと思っていたので、いい意味でびっくりであった。

また女川では誰もがどこかしらに知り合いがいる。これはたった1か月のインターン生でも同じなのだ。ビールを飲みながらついさきまで知らなかった人と話すことがいとも簡単にできる。帰路途中の仙台駅に出たとたん、周りにいるのが知らない人ばかりであることにショックを覚えたくらいだ。コーディネーターの皆さんについても、とても距離の近い大人として、業務以外の様々な話にも耳を傾けていただき、感謝してもしきれない。

総じて普段は築きようのない人間関係を築けた1か月であり、今もフェイスブックを通じてつながる場所がある。

最後になるが、このインターンは岩手・宮城・福島の3県にまたがり水産業やホテルなど職種も多様なので、インターンしてみたいというすべての学生にお勧めできる。特に上智生に多い大都市圏在住で海外志向の人たちに強く推したい。場所柄やそこにいる人すべてが自分がない視点を与えてくれる絶好の機会になると保証する。

以上

## 古切手・外貨コインなどの寄付にご協力ください！

自宅で過ごす時間に片付けや大掃除をされる方、切手、不要となった外貨コイン、ペットボトルのキャップは、大学に入構できる期間が来ましたら、ぜひお持ちください。

古切手は千代田ボランティア・センターに、外貨コインは途上国の教育資金に寄付をしている団体(公益財団法人 日本キリスト教海外医療研究会)にボランティア・ビューローよりまとめて送ります。



ペットボトルのキャップは、本学の課外活動団体Ashaが、洗浄後、回収業者を経てインドの子供たちの教育支援に役立てます。

古切手……封筒に貼られたまま切手のふちを5mm以上残す。  
 外貨コイン……そのままの状態(寄付の合計金額の記載などは不要)  
 →2号館1階 学生センター⑧窓口(ボランティア・ビューロー)までお持ちください。



ペットボトルのキャップは、2号館1階をはじめとする学内数か所のごみ箱付近に設置されている回収箱に入れてください。